

太地町水道事業

経営戦略

(平成29年度～平成38年度)

概要版

太地町

太地町水道事業の現状の分析

太地町水道事業の現状を把握するため、別紙「経営比較分析表」を用いて、平成27年度までの実績値を比較しました。

分析の結果は、概ね次のとおりです。

- 「経常収支率」：事業の黒字赤字を示す。100%未満は赤字を意味する。
⇒26年度からは、100%を上回っており、黒字体質に転向している。
- 「累積欠損金比率」：赤字により発生した損失の蓄積がどれくらいあるかを表す。
⇒26年度からは0%であり、欠損金が発生していない状態に改善している。
- 「有収率」：施設の稼働が収益につながっているかを示す。
⇒50%台で推移しており、他の水道事業と比較してもかなり低い水準です。

上記のとおり、太地町水道事業の経営は、平成26年度の料金改定により、概ね健全な状態に回復しているという結果が出ました。しかしながら、他方で有収率が低い水準で推移しており、漏水対策の推進が課題となっています。

太地町水道事業の将来の予測について

太地町水道事業の将来を予測するため、別紙「投資・財政計画（収支計画）」を作成し、平成 29 年度から平成 38 年度までの期間において、推計値の算出を行いました。予測の実施にあたっては、次のことを見込んでいます。

- 施設更新事業として「西地配水池」の更新を、平成 31 年度に予定しています。
- 施設更新事業の資金は、約 2 億円を水道事業の企業債により、調達するよう予定しています。
- 料金収益は、太地町では人口の減少が予測されているため、水の需要も減少すると考えられるため、推計期間の間、減少すると予測しています。

推計値を、現状の分析でも使用した「経常収支率」と「累積欠損金比率」で分析した結果は、次のとおりです。

● 「経常収支率」の推移について

平成 31 年度までは、100%を上回っており、黒字となる健全な経営を維持しています。しかしながら、平成 32 年度から平成 38 年度までは、100%未満となり、赤字発生とそれが恒常化する経営体質へと転向していくと予測されます。

● 「累積欠損金比率」の推移について

平成 32 年度から発生する赤字が累積していき、平成 37 年度には、自己の資金で赤字を穴埋めすることができなくなります。これにより損失が翌年度に繰り越しされるようになることが予測されます。

また、平成 38 年度には、比率が「-19%」という数値を示しており、料金改定を実施する前の平成 25 年度決算の実績である「-20%」に迫り、経営状態が、料金改定前の水準まで悪化していくと予測されます。

●今後の取組みについて

(1) 料金

平成 26 年度に料金改定を実施したことにより、収支の黒字化や欠損金の解消が図られ、水道事業の経営の健全化を実施することができました。しかしながら、今後の経営状態は悪化していくと予測されており、安定的な事業運営を実施するための料金見直しを検討する必要性があるといえます。

(2) 施設の更新計画

経営状態が悪化していくという予測の中で、施設を更新していくことが求められていますので、施設の更新計画にあたっては、優先度に応じた投資等検討を十分に行い、更新に必要となる費用を抑制するよう努めます。

(3) その他の検討状況

太地町水道事業では、有収率が 50%台であり、かなり低い水準にあります。今後も、漏水調査等を定期的実施することにより、漏水箇所の発見と修繕を図り、有収率の向上に努めます。